

広島大学

令和3年度一般選抜(後期日程)・
外国人留学生選抜C日程3月実施

出題の意図

歯学部 歯学科

科目名:小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

問1

新型コロナウイルス感染拡大は、人々に大きな社会的不安を与えることになった。総じて生活様式の変容が求められ、いつ元の生活に戻れるか分からないというフラストレーションとともに、時には他者への攻撃の原因にもなっている。問題文では「感染したら本人が悪いのだろうか。」いや、「本人を責めることはできないはずだ。」との自問自答の末の結論が出発点となっている。そこから引き起こされる「差別」、更に「科学的対策の障害」に医療人として対応するために身につけるべき資質について、論理的説明を受験生に求めている。医療現場では、感染症だけでなく遺伝病などの、時には治療法のない様々な原因の疾患患者やその家族に寄り添うことが求められる。今回の新型コロナウイルス感染拡大では医療者自身にまで及ぶ差別や排斥が数多く報道された。この中で医療人として冷静かつ真摯に状況に対応し、患者やその家族、更には自分自身を守っていくためには、正確な科学的知識とそれに基づく自信が欠かせない。医療人をめざす受験生として「Be kind. Be strong.」（親切であれ、強くあれ）という言葉はどう捉えるかを記述させ、勉学に対する意欲や、他者への共感力を持つ人材を選抜する。

問 2

医療現場においては、性別、年齢、人種、出身の国や地域、障がいの有無、性的指向、宗教、価値観など、多様性に富む人々に対して十分な意思疎通をとり、相互理解のもと、適切に診療をすすめていくことが求められる。例えば、筆談や手話なども含めた言語的コミュニケーションは、意思疎通のための中心的な手段と考えられるが、医療従事者と患者との間において、日常的に使用する言語が異なる場合がある。また、年齢や障がいの有無などに応じた適切な対応や、文化・宗教の違い、LGBTを含む性的少数者への理解も重要である。本問題では、グローバル社会において医療人を目指す受験生が、医療の現場を例に、個人の多様性に関してどのように対応しようとするかを問うものである。国際社会における個人の多様性に関しての相互理解や寛容性を含め、受験生のもつ豊かな人間性や責任感、倫理性について評価するとともに、科学的視点をもった独創的なアイデア・豊かな想像力と問題解決能力を評価する。